

県南思考 Vol.16

特集：有害鳥獣ブロック作戦

近年、南房総で有害鳥獣による農作物被害が深刻化、とくにイノシシ被害の割合が高くなっています。畑の作物が収穫を目前にして全滅。たわわにみのった美しい水田が、一夜にしてこねくり回したような泥田と化し、大切に育てた果樹も枝ごとへし折られ、食べ散らかした果実が無残にころがっています。農家の方たちの憤りは想像するにあまりあります。どうしたら被害を食い止められるのでしょうか。どんな対策が効果的なのでしょうか。今号は有害鳥獣対策にスポットを当ててお届けします。



特集：有害鳥獣ブロック作戦

結びの対論

亀田県議×木下県議×三沢県議

侵入を防ぎ、捕獲を進めるだけでなく、処理の方法まで視野に入れたトータルな取り組みが必要でしょう。

亀田 まず、読者の皆さんに新メンバーを紹介しましょう。

三沢 4月の統一地方選挙で館山選挙区から立候補し当選させていただいた三沢です。これから木下、亀田両県議と共に南房総の諸問題に取り組んでいきます。よろしくお願ひします。

木下 さて、今回のテーマは有害鳥獣。千葉県全体で捕獲されるイノシシのうち、三分の一がこの県南地域に集中していて、なかでも南房総市はびわを中心に果樹に対する被害が多いため、被害額も突出しています。

亀田 鴨川の場合はイノシシや猿の被害が多く、電気柵などで防いでいますが今日、南房総市で見えてきたような、あのような大規模な防護柵は、まだあまり見ませんね。

三沢 館山市も、まだ被害は南房総市、鴨川市、鋸南町に比べ、それほどではありませんが、なにしろ南房総市に隣接しているため他人ごとではありません。現に目撃例、被害が報告されるようになり、少しづつイノシシが増えているという実感があります。

木下 農地が動物たちに荒らされて、農家の方たちは防護柵で囲ったなかでの農作業を強いられている。ここまで増えると、防護だけでは無理で、やはり捕獲にもっと力を入れないと問題解決にはならないでしょう。

三沢 本当は猟友会の皆さんのが犬を連れて山狩りをするのが最も効果的なんでしょうが、猟銃資格を持った方が最近は減ってきており。わなを仕掛けた場合でも、箱わなならなんとでも処分できますが、くくりわなにかかったイノシシなどは、どうしてもハンターにトドメを刺してもらわなければなりません。

木下 かかった動物たちも必死で逃げようとしますから、万が一にもわなが外れて向かってきたケガではすみませんからね。

亀田 わなを仕掛けるにも狩猟免許が必要なわけですが、そもそも免許取得のシステムが不便だという声が届いています。講習会も試験も市原まで出かけていかなければならない。仕事を休んで往復するのは大変ですよ。

三沢 しかも、その場所が山の中の辺鄙な場所にあって、気軽に歩いて帰ってこれる場所とはいがたい。

木下 これだけ被害が発生している安房地区に対し、市原で試験をやるから、そちらから来いという発想自体が不親切。そこで我々県議会議員が動いて、安房地区でも開くよう県に働きかけ、平成27年度中に開催されることが決まりました。

亀田 ところで現行の法律では、仕留めたイノシシなどの動物は山中に埋設処理しなければならないようになっていますが、やはり焼

木下 敬二（きしらけいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和 23 年 5 月 17 日生まれ



事務所 /
〒295-0005 南房総市千倉町牧田 164-1
TEL:0470-44-4111 FAX:0470-44-4112
<http://kishitakeiji.com/>
e-mail : info@kishitakeiji.com

亀田 郁夫（かめだいくお）

鴨川市選出
昭和 27 年 2 月 16 日生まれ



事務所 /
〒296-0041 鴨川市東町 665
TEL:04-7099-0190 FAX:04-7099-0191
<http://www.kameda190.com/>
e-mail : ikuo-k@leaf.ocn.ne.jp

三沢 智（みさわさとし）

館山市選出
昭和 29 年 11 月 14 日生まれ



事務所 /
〒294-0037 館山市長須賀 470-1
TEL:0470-22-3051 FAX:0470-22-3052
<http://misawasatoshi.com/>
e-mail : office@misawa-satoshi.com



県南思考 Vol.16

発行：2015年8月15日

制作：「県南思考」制作委員会

編集：式守編集工房

デザイン：野村友紀

南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本誌をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽にお寄せください。



特集：有害鳥獣ブロック作戦

侵入を防ぎ、適正頭数へと捕獲する。
有害鳥獣から農作物を守るために
いま、県南で行われていること。

ここは南房総市。

高さおよそ2メートルほどもあるフェンスが、ときに水田を回り込み、ときに里山深くかけのぼって、富山地区から三芳地区にかけ、延々2.6キロにわたってつながっています。今年の春、地域の農作物を守るために設置されました。

設置作業を行ったのは、農家の方を中心とした地域住民の皆さん。土中ふかく鉄製の柱を約1000本も打ち込み、そこに金属ネットを張りつけ、約半月かけて完成させました。

「イノシシだけでなく鹿にも対応できるよう背を高くしたため、柵を設置してからは私たちの田んぼや畠では、少なくとも農作物被害は、ほぼゼロになりましたね」

と、侵入を食い止めることに成功。隣接する集落と協力したことが、いっそう効果をあげています。

年間1億円前後の農業被害

千葉県が発表したデータによると、有害鳥獣による農作物被害は、安房地域に限っても年間で1億円前後となっています。

この数字もごく表面的なもので、被害が報告されていないケースや小規模農園、家庭菜園などを加えると相当な額にのぼるはずです。

有害鳥獣とは、地域の農作物や市民生活に害を与える野生動物や鳥類のこと。

イノシシ、鹿、猿、キヨン、カラスなど多種多様ですが、被害も稻、野菜畑、また南房総の基幹産業である果樹などへと広がっています。

なかでも深刻なのがイノシシによる被害です。

近年になって、その生息域が拡大し、山から人間の生活圏にまで降りてくるようになり、その強い繁殖力も爆発的に被害を拡大させる一因となっています。

イノシシによる被害が大きいのはいすみ



安房地域で約5700頭を捕獲

有害鳥獣に対してはガードするだけでは効果がありません。捕獲も必要です。

従来、捕獲といえば、地元の猟友会による銃器での捕獲がメインでしたが、最近は「わな」がメインとなっています。

わなには一般的によく用いられるものに、くくりわななど箱わながあります。

くくりわなとは、動物たちの通り道にワイヤーなどを設置して、その脚を捕らえるもの。軽く持ち運べて簡単に設置できますが、効果をあげるには設置方法が重要で、その生態を熟知した経験が必要です。



一方、箱わなは、鉄などでできた大きな柵を設置して、エサにつられて動物が入ると入口が閉まり捕獲するものです。

捕獲した後で殺処分する際の危険が少ないというメリットがある一方で、大きくて



イノシシは大きなものでは100キロを超える。食害だけでなく、その巨体で枝をへし折る、水路を壊す、穴を掘る、泥あびをするなど、畠へのダメージをいっそう深刻なものにしている



▲木の部分を踏むとバネがはじけてワイヤーがしまるくくりわな。落ち葉などでカムフラージュして設置する

◆有害獣対策指導員の佐久間繁氏から箱わなの説明を受ける(左から)亀田、木下、三沢県議

重いため、山深い場所に設置するのは困難といった側面もあります。

いずれも一長一短がありますが、それを使い分け捕獲を行っています。

南房総市富浦町手取地区。

平地から一歩山へ足を踏み入れると、随所に、箱わなやくくりわなが仕掛けられていきました。

「箱わなは、定期的に移動させなければならないんですが、ひとりでは無理。有害鳥獣に対しては地域で協力し、力を合わせて取り組んでいます」と、声をそろえる皆さん。

こうした活動の結果、安房地域だけで年間5,700頭ものイノシシを捕獲しています(平成26年)。

人と動物たちとの共存の道

有害鳥獣対策は、いたずらに動物、鳥類を捕獲することが目的ではありません。人と野生動物との共生を探すこと、それが大きな目的です。

防護柵を設置して集落の農作物を守り、その一方で、コンスタントに捕獲を進めて頭数を減らしていく。人間の生活圏に有害



鳥獣の生息しやすい環境を作らないことも必要で、その意味では耕作放棄地をなくし、捕獲したイノシシなどの肉を食肉として活用する方法を探ることも必要でしょう。

なんとか有害鳥獣を山へ押し戻し、「動物たちは奥山、人は里」という住み分けを実現させ、バランスのとれた環境を取り戻したい。

里山を舞台に関係者の努力が続いている。

7月19日、静岡県西伊豆町で川岸に設置されたシカよけの電気柵によって感電する事故がありました。安房地域では市、町、有害獣対策指導員の指導を受け、危険を知らせる表示板、漏電対策などを施し、安全に対し十分に配慮して設置されています。



3県議と有害鳥獣対策を語り合う(前列右から)千葉県安房農業事務所所長/吉岡英樹氏、有害獣対策指導員/佐久間繁氏、次長/北見寿昭氏(後列右から)JA安房理事/渡辺高享氏、安房猟友会富浦支部長/山田昭氏、南房総市有害鳥獣対策協議会富浦支部長/羽山操氏



Pin Point



安房農業事務所におたずねします。

南房総全域でひろがる有害鳥獣による農作物被害。増え続ける被害の実態と、どうしたら被害を食い止めて農作物を守ることができるのか。千葉県安房農業事務所にうかがいました。

なぜ有害鳥獣が増えているのか 南房総における農作物被害の実態は

有害鳥獣のうち、最も被害が大きいのはイノシシですが、もともと野生で生息していた動物ではありません。一説によると、ハンティングを楽しむために放したのがきっかけとも言われています。温暖で快適な気候、エサとなるどんぐりの木が多く生えていて、さらに繁殖力が強いこともあって爆発的に増えています。いま、安房地域だけに限っても年間で1億円前後の農作物被害が出ていて、南房総市、あるいは鋸南町はひわを中心に単価の高いくだものが被害にあうケースが多いため、トータルの被害額を押し上げています(表参照)。こうした食害以外にも、土中の虫やミミズなどを食べるために土を掘り返して水路を壊す、水道管を壊す、道路上に穴を掘る。ときには県道に飛び出して交通事故を起こすなど、市民生活を脅かすまでになってきています。

対策その① まず侵入を防ぐこと 防護柵、防護ネットで農作物を守る

今回、記事で紹介している延長2.6キロの防護柵は、国の補助金(鳥獣被害防止総合対策交付金)530万円を活用して設置されました。毎年コンスタントに数十キロ単位で同様の柵を新設しています。今後は被害の大きい鋸南町や、被害が発生しつつある館山市の方でも設置を急がなければなりません。防護柵は地域で協力して自分たちの手で設置すれば、資材費の全額が補助されます。したがって、鉄製の柱を立て、ネットを張りめぐらすこともふくめ、設置作業をすべて地域の方を中心に行っているのが現状で、人の手の集まりやすいところはいいのですが、ご高齢だったり、農家人口の少ない場所をどうするかなど課題も残っています。

対策その② 全体の頭数を減らすこと 適正な頭数をめざし捕獲を続ける

以前は、猟友会の皆さんによる猟銃捕獲が一般的でしたが、最近は、わなによる捕獲が主

流です。たとえば富浦地区の場合だと、箱わなが130程度、くくりわなはその約4倍の500個ほど設置されています。わなは毎日チェックし、かかっていたら殺処分して土に埋設する必要があります。放置したままだと、この陽気ですからアッという間に腐敗して環境衛生上も問題があるからです。県南地域には捕獲した動物たちを処理する解体施設が君津はじめ5ヶ所あります。こうした施設を活用して、農家の方々の負担を軽くしていきたいと考えています。

南房総の有害鳥獣被害

(千葉県農地・農村振興課/H26年8月発表)

地域	被害Top 3	被害面積(ヘクタール)	被害金額(円)
南房総市	①果樹 ②稻 ③野菜	21.2	3241万4000
鴨川市	①稻 ②野菜 ③特用林産物 ^(*)	8.0	1212万7000
館山市	①果樹 ②稻 ③特用林産物	15.6	748万3000
鋸南町	①野菜 ②果樹 ③稻	11.5	2801万6000

^(*)特用林産物とは、キノコ、山菜などをさします。